



WALK TOGETHER WITH OUR PRIDE

志を貫徹し、まちの未来を切り拓け

JCI Kitakyushu 2026

Design Concept

5つの市が合併して誕生した北九州市は、
これまで日本の成長を支えてきました。
今では一つにまとまり、
これからは7つの区がそれぞれの強みを発揮しながら
輝いていく姿を、太陽が光を放つイメージに重ねています。
また、濃紺の海から昇る日の出には、
新たな時代の幕開けを象徴させています。

*内側の五角形で旧五市を、
外側の七角形で7つの区を表しています。



043

一般社団法人北九州青年会議所

Junior Chamber International Kitakyushu

事務局 | 北九州市小倉北区古船場町1-35-6F(〒802-0082)

1-35-6F, Furusenba-machi, Kokura-ku, Kitakyushu, Fukuoka, JAPAN, 802-0082

TEL 093-531-7910 / FAX 093-551-0212

E-mail: room@kitakyushu-jc.jp

Instagram kitakyushu.jc

Find us on Facebook KitakyushuJC

<http://www.kitakyushu-jc.jp>



WALK TOGETHER WITH OUR PRIDE 志を貫徹し、まちの未来を切り拓け



JCI Kitakyushu

ANNUAL REPORT

アニュアルレポート

2026

2025 ▶ 2026



一般社団法人北九州青年会議所



第74代理事長
刀根 和也

2026年度 理事長所信

WALK TOGETHER WITH OUR PRIDE

志を貫徹し、まちの未来を切り拓け

〇はじめに

ある休みの日。小学生だった私は、わくわくしていた。父が働いていたデパートに、遊びに行くのだ。休みの日のデパートは、たくさんのお客さんと溢れていて、店内は活気に満ちていた。デパートの向かいにある商店街もまた、わくわくする場所だった。たくさんの専門店が軒を連ね、アーケードは、小さな子どもから中高生、大人、ご老人、様々な人がお店を出たり入ったり、あるいはウィンドウショッピングをしながら、休日を楽しんでいる。

今思えば、このまちの光景は、北九州というまちの活気そのものだった。そして、私は子ども心にも、北九州というまちが大好きで、誇りであった。しかし、工業都市として栄えた北九州は、産業構造の変化によって徐々に以前の活気が失われ、今や、人口減少や高齢化といった我が国の各都市、ひいては世界が抱える社会課題にいち早く直面する「課題先進都市」と言われるまでになった。それでも私は、純粋に「北九州を元気にしたい」と思っていた。だから、多くの企業からの内定を全て辞退して、地元企業に就職した。そして、より主体的に、まちを元気にする事業をしたいという思いで独立・起業した。

そんな中、私はJCに出会った。JCには、私と同じように、今も昔も北九州を愛し、北九州のために汗をかく人たちがいた。そして、その思いは70年余に渡り、先輩方から連綿として受け継がれている。

私は、くやしい。北九州が「課題先進都市」などという表現で表されていることがくやしくしてしまう。

しかし、北九州にはJCがある。北九州を明るく豊かに、誇りを取り戻そうとする青年たちがJCにはいる。JCの仲間と共に、北九州を「課題先進都市」から「課題『克服』先進都市」へ。そして、北九州の誇りを取り戻すため、私は全身全霊を込めて、駆け抜けることを誓う。

〇2026年度の事業方針 友情の絆を力にまちの発展へ

北九州JCは、台北JC、ウェラワツタJC、仁川富平JCおよびインパクトJCと姉妹締結し、積極的な国際交流事業を展開してきた。

近年では、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大によって直接的な交流ができない状況に直面したが、デジタルツールの活用等によって、姉妹JCとの友情を育んできた。

JCの行う国際交流事業は、青年会議所の最大の目的である「恒久的世界平和」の実現に直接的に寄与する取組みであり、JC運動の根幹の一つであることは論を待たない。

これまで、JCが展開する国際事業は、人與人、LOMとLOMとの交流がメインであった。私はこれを一歩進めて、姉妹JCとの交流を、お互いのまちの発展や市民の未来に繋がるものに進化させたいと考えている。

すなわち、海外のLOMには、国内では知り得ないまちづくりの取り組みがあるであろうし、北九州と同じ社会課題を有しているまちもある。逆に、北九州から海外に提供できる先進的なまちづくりの取り組みや情報もある。

姉妹JCとの交流を通じて、双方のまちの課題を共有し、お互いのまちのために何ができるかを考えることは、JCにしかできないまちづくりのアプローチである。また、姉妹JCの交流を通じて、双方のまちの発展に寄与できれば、姉妹JCとの友情関係が、まちとまちとの友情関係、ひいては国と国との友情関係に発展することを確信している。

姉妹JCとの交流を通じて、広い視野でまちづくりを考え、JCならではのアイデア、情報を北九州に還元していきたい。

課題先進都市から課題『克服』先進都市

前述のとおり、北九州は、「課題先進都市」と表現されることがある。

これは、人口減少や高齢化といった社会課題に、我が国の各都市、ひいては世界中の国や地域に先んじて、北九州がいち早く直面することを意味する。北九州はそのような都市として、国内外から注目を集めている。

もっとも、北九州は最近、「課題先進都市」になったわけではない。現在、「課題先進都市」と言う表現は、まちの活力が減少する文脈で用いられることが多いが、北九州は、まちが「発展」する中でも、「公害」という深刻な環境社会課題に、他の地域に先んじて直面してきたという歴史がある。

その課題に対し、婦人会による「青空がほしい」運動に端を発し、産学官民が連携して公害を克服してきた。この北九州の公害克服の取組みは、他の自治体のロールモデルとなり、近年では、北九州が海外において展開する国際環境ビジネスの礎ともなっている。

このように、北九州には社会課題「克服」の歴史と実績があり、他にはない魅力的な特性も多くある。その歴史と特性から可能性を見出し、JCが市民のリーダーとして、今、北九州が抱えている社会課題に切り込み、北九州の魅力を発信し、課題解決の成功事例を創出したい。

成功事例は、決して大規模なものでなく、局地的なものでもよいと考えている。小さな成功事例が、ロールモデルとなって他の地域に波及して、やがてはまち全体の課題解決に寄与する。そのような課題「解決」の起点となるような、確かな一歩となる何かを、皆で考え、創造していきたい。

志を育み、まちの未来を創る

北九州が抱える様々な課題を解決するには、北九州で生まれ育った子どもたちが、大人になっても北九州に住み暮らし、北九州の発展のために汗を流す、ということが非常に重要であり、そのような人々の存在そのものが、「人口減少」や「高齢化」という課題を克服する一助となる。

2026年度 活動方針

1. 友情を礎に、高め合う国際交流をしよう
2. 歴史を力に、課題『克服』先進都市へ
3. 志と誇りを育み、未来を担う人材を創ろう
4. 仲間を助け、学びと成長の原点を磨く
5. 戦略的発信で共感を広げ、誇りある北九州へ

しかし現状は、高校、大学などを含む北九州市の全卒業生の約60%が市外へ流出し、都心での就職を選んでいる。

その原因として、地元で働くことを希望している若者の希望職種と、地元企業の求める人材のミスマッチなど、一朝一夕には克服が難しい問題もある。

しかし、私たちは、子どもたちの「心」に呼びかけ、「心」を育てることによって、この課題を解決していきたい。

すなわち、北九州の子どもたちに対し、「自分たちが将来の北九州を担う存在なのだ」という使命感と誇りを胸に、大きな志を持って自身の将来を考えるきっかけとなるような「原体験」を、私たちの事業を通じて提供したい。

「自分たちが将来の北九州を担う存在なのだ」という使命感と誇りを持った子どもたちが増えれば、自ずと、学校を卒業した後も、北九州で就職する、あるいは北九州で起業する若者が増え、そのような若者の存在が、北九州が抱える様々な課題を解決する原動力となり、世界に誇れる北九州を築いていくと私は確信している。

人こそ力、仲間とともに未来へ

青年会議所は、まちを思う「人」の集まりであり、「人」が青年会議所の原動力であって、唯一の財産といえる。よって、LOMの「人」を増やす会員拡大運動は、今も昔もLOMの総力をあげて取り組むべき事業である。

しかし、残念なことに、北九州JCの会員は減少傾向と言わざるを得ない。また、各年度の会員分布を鑑みると、この数年でかなり多くの会員が卒業を迎えることとなり、今後、会員拡大運動が停滞すると、北九州のJCの会員は激減するのは明らかである。

従って、会員拡大運動は、速やかに成果を出さなければならないLOMの喫緊の課題であることを、LOMの全メンバーの共通認識としたい。

現在は、JC以外にも様々なまちづくり団体が存在し、それぞれの団体が目的を持ってまちづくりに取り組んでいる。このような各団体は、JCの運動と目的は異なっているとしても、まちを思い、まちのために汗をかいている人の集まりであることはJCと共通しているはずである。

私は、今年の会員拡大運動の取り組みとして、これまでの伝統的な会員拡大手法に加え、このような他のまちづくり団体とも積極的に交流し、その中でJC入会に適格性を有する青年経済人を発掘し、入会につなげたいと考えている。

まちを思う心に団体の垣根は障害とならない。北九州を思い、活動する心のある青年経済人にJCの魅力を知ってもらい、入会に繋げ、LOMをいっそう活性化していこう。

学び、体験し、次代を担うJAYCEEへ

北九州JCの門を叩いて間もないアカデミーメンバーへの教育は、未来のLOMの力に直結する重要な運動である。

アカデミーメンバーには、北九州JCの歴史と創始の精神を学んでいただくとともに、JC運動の中での「成功体験」を通じて、JAYCEEとして成長し、一人ひとりが今後の北九州JCを担う人材として活躍していただきたいと考えている。

そして、北九州JCの歴史と創始の精神を学び、かつ事業を通じての成功体験を享受できる事業が、「わっしょい百万夏まつり」である。

旧五市意識を払拭することを目的に北九州JCが開催した「まつり北九州」は、「わっしょい百万夏まつり」へ進化を遂げ、北九州最大規模のまつりとして現在に至っている。

アカデミーメンバーには、今年もLOMの中心として「わっしょい百万夏まつり」に参画していただき、JCがつくるまつりの壮大なスケールを体感していただくと共に、このような素晴らしいまつりを創造し、発展させてきた北九州JCの歴史を学ぶ機会としたい。

加えて、今年のアカデミーメンバーには、他委員会の事業にも当事者意識を持って積極的に参画していただきたいと考えている。

アカデミーメンバーが、入会当初からJCの様々な運動に参画することで、アカデミーを卒業後、2年目から「即戦力」としてJC運動を展開できる人財となることができ、早いうちから自身が注力したい運動分野を発見することができれば、JCに対する高いモチベーションを維持して活動することができる。

アカデミーメンバーには、「歴史と創始の精神」を学び、「成功体験」を得ながら、様々な運動分野に「参画」する、そのような充実したJCライフ1年目を送って欲しい。

変革と調和で築く、次世代型組織運営

青年会議所は「明るい豊かな社会の実現」を理念に掲げ、先人たちは時代ごとの社会課題に挑戦してきた。年齢制限や単年度制という仕組みがあるからこそ、常に新しい時代の課題に柔軟に挑めるのがJCの強みである。この特性を活かしつつ、時代に合わせて組織や運動の「形」を進化させる必要がある。特に近年では、デジタル活用において、日々進化しており、私たちもSNSの利用やDX化について促進していく必要がある。

しかし、便利になる一方で、組織としてはただ楽になればよいというものではない。情報発信については情報量が増え続ける中で誰に・何を・どのように届けるかを明確にした「戦略的広報」へ転換し、市民の共感や意識変革につながる質の高い発信を行う必要がある。また、会議体についても組織の基盤を支える従来の役割に加え、デジタル活用による効率化を推進するだけでなく、創出した時間を議論や学びに充てることで組織力の底上げを図っていく。このように変化の中で単に効率を目指すだけでなく、効果的な組織運営をおこない全体の価値向上を目指す。

〇最後に（未来へのビジョン）

まちの課題を解決することは、決して容易なことではない。なぜなら、まちの課題は、そのまちの歴史、地域性、市民性などが複雑に絡み合い、長い年月を経て醸成された、そのまちの「病相」だからだ。

しかし、JCの先人たちは、いつの時代もその難題に正々堂々と勝負を挑んできた。そして、その課題を克服してきたからこそ、JCが社会的存在として認識され、今も存在し続けているのだと考える。

とすれば、まずは私たちが、JAYCEEとしての誇りと覚悟を持ってまちの課題に立ち向かわなければならない。

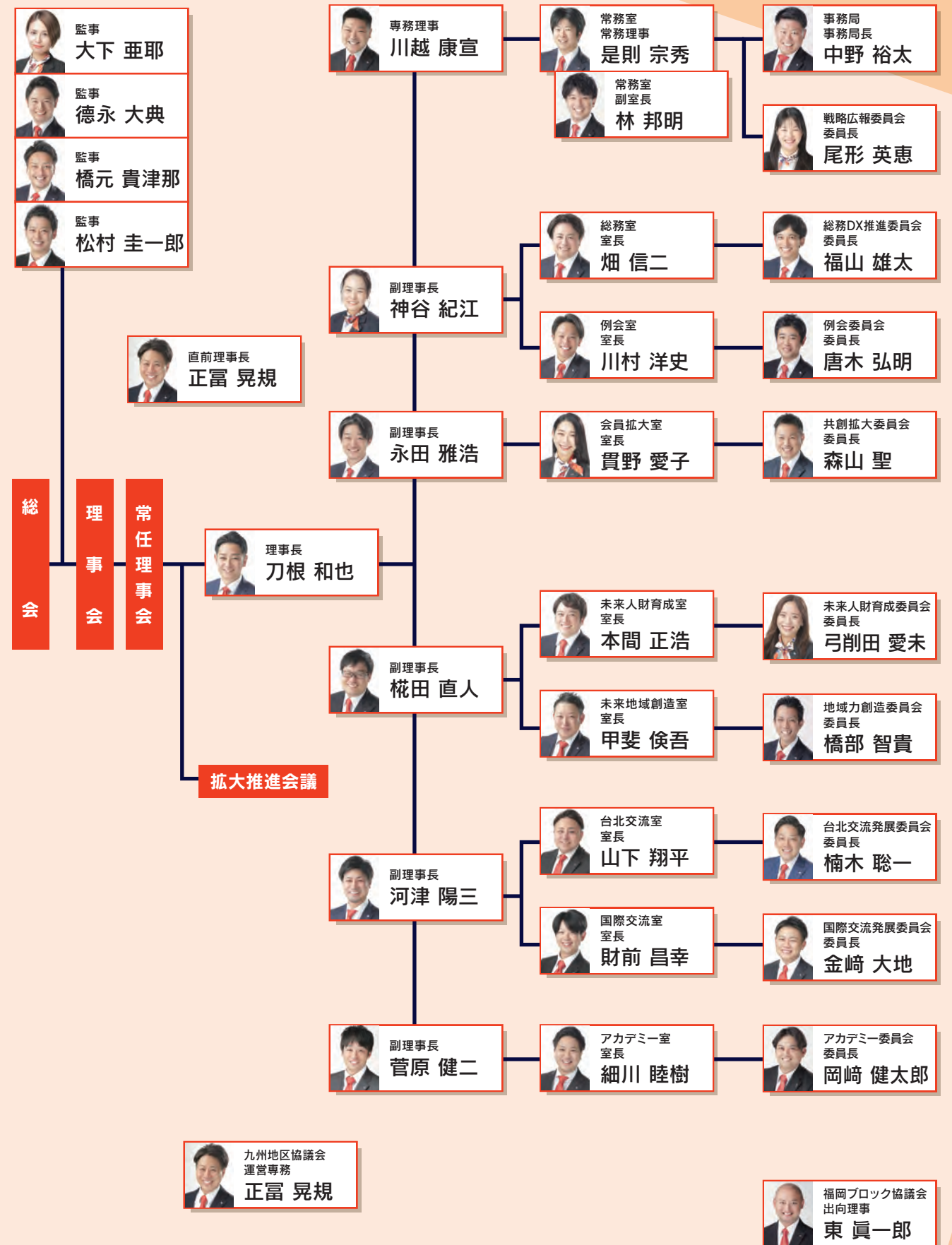
Walk together with our pride ～志を貫徹し、まちの未来を切り拓け～

そして、私たちの運動のその先には、私が小学生のころに感じた、活気と誇りに満ちた北九州の光景が広がっていると確信する。

2026

Junior Chamber International Kitakyushu 2026

2026年度 組織図 / ORGANIZATION CHART



ごあいさつ / MESSAGE



福岡県知事
服部 誠太郎

北九州青年会議所におかれましては、長きにわたり魅力ある地域づくりや青少年育成などに取り組まれ、地域の発展にご尽力いただいています。皆さまの熱意とご努力に深く敬意を表します。

日本の未来を創り、担っていくのは人であるとの考えのもと、私は県政を進めるにあたって、人材育成をチャレンジの一番に掲げています。

貴会では、職業体験をはじめとする多様なチャレンジの機会を提供する「北九州キッズチャレンジパーク」や、台北のこどもたちとの国際交流を深める「IFP児童交換事業」を通じて、こどもたちが自身の可能性に気づききっかけづくりに積極的に取り組まれています。

皆さまのこうした活動に心から感謝申し上げますとともに、引き続き、北九州地域はもとより、福岡県全体の活力ある発展のために、一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

こどもたちがさまざまな体験を通じて自らの内にある無限の可能性に気づき、未来に向かって大きく羽ばたこうとするチャレンジをこれからも共に応援していきましょう。



北九州市長
武内 和久

いつの時代も、地域の未来を動かすのは“まちを愛し行動する人”です。まさにその役割を担い、揺るぎない情熱で活動を続けてくださっている北九州青年会議所の皆様に、心からの感謝を申し上げます。

昨年も、「北九州キッズチャレンジパーク」を通じて子どもたちに挑戦の楽しさを届け、「わっしょい百万夏まつり」ではまちの賑わいを支えていただくとともに、関門連携の新たな可能性を示してくださいました。

貴所が掲げる「利他の心」、そして、北九州市を「課題先進都市」から「課題『克服』先進都市へ」という志は、これからの北九州市が果たすべき使命と深く響き合います。若い皆様のまっすぐな想いと頼もしい行動力は、北九州市の目指す都市像の実現に向けた変革の原動力です。

先人が築いた歴史と創始の精神を受け継ぎ、友情の絆を力に変えながら、挑戦を恐れず歩む皆様のその姿勢は、次の世代に確かな道をつないでいくと確信しています。

希望に満ちた北九州市の未来を、ともに切り拓いてまいりましょう。



北九州商工会議所会頭
津田 純嗣

地域社会の発展や若者の成長のため、多岐にわたる活動に果敢に取り組まれている北九州青年会議所の皆さまに心から敬意を表します。

2026年度の事業方針の柱として掲げられた「志を育み、まちの未来を創る」には深く共感いたします。北九州市では高校、大学を卒業後の若年人口の流出が課題となっています。将来の北九州を担うことに、使命感と誇りを持つような若者たちに定着してもらうために、子どもたちの「心」に呼びかけ、育てようというのは、大切な取り組みです。

まちの発展には若い力が必要不可欠です。昨年のもっともよい百万夏まつりは、例年より多くの若者が集まり、期間中、まちは大変活気にあふれました。人気グループのライブを展開するなど、北九州青年会議所の企画力がもたらした成果でしょう。

北九州青年会議所と北九州商工会議所は「北九州を元気なまちにする」という同じ志を共有しています。今後も連携をますます強固にして、まちの未来のために、共に歩んでいきましょう。



公益社団法人日本青年会議所
第75代会頭
加藤 大将

一般社団法人北九州青年会議所の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

また日頃より公益社団法人日本青年会議所に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

貴青年会議所が、刀根 和也 理事長のもと、スローガン「Walk Together With Our Pride ～志貫徹し、まちの未来を切り拓け～」を掲げられ、明るい豊かな社会の実現を目指し、邁進されることと存じます。

本年度、日本青年会議所は「真の心が生み出す 幸せな国 日本へ」を基本理念に掲げ、家庭や地域といった身近な暮らしの場から、国民一人ひとりが未来に希望を抱き続けられる社会の創造を目指し、全国各地にて運動を展開してまいります。

その運動構築にあたりましては、「誰に、どのような価値を届けるのか」という視点を常に念頭に置き、青年会議所の内に留まることなく、広く社会に必要とされる運動を創出すべく、真摯に取り組んでまいります。

私たちJCメンバー一人ひとりが、手と心を携えて社会に変化をもたらす、希望という名の力を注ぎながら、ともに幸せな未来を築いてまいりましょう。

結びに、貴青年会議所の更なるご発展と、地域における運動が大きな成果をもたらされますこと、そして皆様にとって本年が実り多き一年となりますことを心よりご祈念申し上げます。

TRUE MIND TRUE HOPE～幸せな未来へ～



DO YOUR BEST FOR OTHERS

利他の心あふれる未来

KITAKYUSHU JC 2025



一般社団法人 北九州青年会議所

第73代 理事長

正 富 晃 規

73th President

〔 2025年度 理事長所感 〕

はじめに ～利他が生み出す変革の力～

2025年度、北九州青年会議所は「DO YOUR BEST FOR OTHERS ～利他の心あふれる未来～」をテーマに掲げ、すべての運動の根底に“利他”という価値観を据えて一年間を歩んでまいりました。利他とは、他者の幸せを願い、自らの行動によってその実現に寄与しようとする姿勢を意味します。青年会議所運動は、まさにこの利他性によって成立しており、誰かのために最善を尽くす青年の行動が、社会を前へと進めてきました。

私自身、理事長としての一年を過ごす中で、利他の心が人を動かし、組織を変え、地域に変革をもたらす力を確信する場面に幾度となく立ち会いました。メンバー一人ひとりが、仲間のため、地域のため、未来のために最善の行動を積み重ね、その結果として数多くの事業が実り、目に見える成果とともに、人々の意識の変容という大きな価値を生み出すことができました。本所感では、本年度の重点テーマに沿って一年間の軌跡を振り返り、理事長としての総括を述べさせていただきます。

「相互共生」の心で地域連携都市の未来を創造しよう！ (地域連携)

本年度の地域連携事業は、北九州JCと下関JCが対等なパートナーとして一つの事業を創り上げるという、従来にない新しい協働の形を示す取り組みとなりました。行政や多世代の市民を巻き込み、関門エリアを「一つの都市圏」として捉え直すための実践的なアクションを実現できたのは、青年会議所だからこそ可能であったと感じています。

北九州と下関は、地理的にも生活圏としても密接に結びつきながら、行政区分の違いゆえに一つの都市圏として語られる機会は多くありませんでした。しかし、人口減少、若者流出、産業構造の変化といった課題は両市に共通しており、本来であれば互いが支え合うことでより大きな価値を創出できる関係です。本年度は、その「相互共生」の精神を形にする取り組みとして、「関門エリアプロモーションマーク制作事業」を実施しました。

本事業は単なるデザイン制作にとどまらず、関門をひとつの都市圏として再定義し、地域の未来像を共有するための市民参加型の取り組みでした。中学生から50代までの幅広い世代が制作委員として参画し、「関門らしさとは何か」「両市の強みをどう融合させるか」といったテーマについて議論を重ね、三つのチームがそれぞれマークを制作。最終案は市民投票によって選ばれ、地域全体の想いを宿した象徴が誕生しました。

下関「馬関まつり」でのPR、そして北九州最大のまつり「わっしょい百万夏まつり」のステージで両市長が揃って発表した場面は、関門エリアが「連携都市」へと歩み出す象徴的な瞬間でした。青年会議所の提案が行政を動かし、市民を巻き込み、メディアにも取り上げられたことは、本事業が地域の未来をつくる大きな一歩となった証でもあります。

制作されたマークは、関門汽船、門司港、唐戸市場、各種観光連携事業などで使用され、今後さらに広がっていく予定です。官民が同じ旗印を掲げ、関門ブランドを発信していく未来を切り拓く起点となりました。

子どもたちの「挑戦心」と「利他の心」を醸成しよう！(青少年育成)

本年度の青少年育成の柱となった「北九州キッズチャレンジパーク2025」は、約2,500名の子ども・保護者にご参加いただき、大きな手応えとともに開催されました。3年目の実施となる本事業は、前年までの成果と課題を丁寧に分析し、プログラムの教育的価値をさらに高めるべくアップデートを行いました。

今年度のテーマは「挑戦心 × 利他の心」。自己肯定感の向上にとど

まらず、子どもたちが他者を思いやる心を育むことを明確に掲げ、新しいファンクションを導入しました。協働して課題に挑戦する「チャレンジツアー」、医療などの体験を通して人の役に立つ喜びを知るお仕事体験、そして感謝の気持ちを可視化する「ありがとうの樹」。これらの仕掛けによって、会場では互いに声を掛け合い助け合う姿があふれ、「自分ができれば良い」から「誰かのために行動する」へと価値観が変わる瞬間を数多く目にしました。

保護者のアンケートでも、「子どもが他の子を助けていた」「挑戦する姿が見られて嬉しかった」といった声が寄せられ、行動変容にもつながっていることが確認できました。

加えて本年度は、一般社団法人北九州ドリームサミット(KDS)との協働により、認定NPO法人人口シナントスを通して、北九州市で役目を終えた救急車をスーダンへ届ける国際支援プロジェクトにも参画。子どもたちは「自分の学びや行動が遠い世界の人の役に立つ」という実感を得て、地域教育と国際貢献の接点を理解することができました。

本事業を通じて子どもたちが身につけた「挑戦する勇氣」「やり遂げた自信」「誰かを助ける誇り」という三つの要素は、次世代を生きるうえで不可欠な力です。北九州JCの青少年育成は、地域に根ざした教育モデルとしてさらに深化し、未来を担う子どもたちの成長に確かな価値を残す一年となりました。

JCだからこそできる国際交流を体感しよう！(国際・台北)

本年度の国際交流事業では、先輩方が築いてこられた国際の絆を受け継ぎつつ、JCならではの国際協働の価値を再確認する一年となりました。JCI台北(台湾)、JCI仁川富平(韓国)、JCIインバクト(モンゴル)、JCIウェラワッタ(スリランカ)のすべての姉妹JCとの交流が実現し、互いの歴史と友情の重みを改めて感じる機会となりました。特にJCI台北とは第56回目となるIFP児童交換事業を実施し、子どもたちが異文化に触れ成長する姿や、受け入れ家庭が国際理解を深める貴重な機会となりました。

7月には、姉妹締結50周年を迎えたJCIウェラワッタの代表者として、北九州JC名誉会員でもあり、1989年にJCI世界会頭を務められましたイスファハーニ・サミン先輩をお迎えし、記念式典を開催しました。姉妹締結当時の理事長・深町歴代理事長をはじめ、先輩方から語られた情熱的な活動の歩みは、国境を越えた友情の原点を示すものであり、国際交流の精神を次世代へと伝える貴重な時間となりました。

10月には、JCIインバクト創立10周年に出席し、歴代理事長の皆様と共に祝意を伝えることができました。また11月には、JCIウェラワッタを訪問し、現地で姉妹締結50周年を祝う式典に参列しました。友情を育んできた相手国の地で節目を迎えられたことは、北九州JCにとって大きな誇りであり、国際協調の意義を強く実感する機会でもありました。

世界中でグローバリズムとナショナリズムが揺れる現代において、JCが特に日本人が示すべき価値とは何か。それは「和の心」に象徴される調和の力であり、相手を尊重し、違いを理解し、共に未来を描こうとする利他的姿勢です。本年度の国際交流は、その価値を私たち自身が体感し、次世代へ継承する重要な時間となりました。

仲間を増やし共に成長をしよう！(拡大・育成)

本年度の会員拡大では、北九州JCの理念に共感し、共に挑戦する仲間を迎えるべく活動を強化しました。その結果、27名の新たなメンバーを迎えることができ、組織の活力は大きく向上しました。

ゲスト向け事業である「JCコミュニケーションパーティー」では、青年会議所の価値と魅力を分かりやすく伝え、既存メンバーとの対話を通じて「共に活動したい」と思える環境づくりを進めました。

育成面では、日本JCが提供する会員資質向上プログラムを積極的に活用し、新入会員のみならず既存メンバーにとっても学びの機会を

創出。自らの成長を求め続ける文化を醸成し、LOM全体のレベルアップにつながりました。

拡大とは単に人数を増やすことではなく、共に学び、成長し、行動する仲間を迎えることであり、この本質を理解し実践できた一年であったと感じています。

「利他の心」を持った次世代のリーダーを育てよう！(アカデミー)

本年度アカデミー研修室は、「思いやりはアクションから始まる」をテーマに、新入会員が主体的に行動しながら学ぶ一年となりました。室会議では、JCの理念や組織の歩みを学び、さらにコンセンサストレーニングを取り入れることで、多様な価値観を持つ仲間との議論や合意形成の力を身につけました。

また、アカデミー委員会の担当事業や、わっしょい百万夏まつり・到津の森公園支援事業など北九州JCが誇るレガシー事業に参画したことで、地域に貢献する意義と責任を肌で感じる経験を積むことができました。

こうした研修を通じてアカデミー生は、主体性・協働性・利他性を備えた次代の中心メンバーへと成長しました。

「学び」と「交流」の機会をフル活用しよう！(例会)

例会は青年会議所の根幹であり、厳粛なセレモニーと学び、そしてメンバーの交流が融合する貴重な場です。本年度は例会担当制により、メンバーが主体的に企画から設営まで携わり、例会の質が向上しました。

7月3日創立記念例会では、多くのシニア・OBの皆様にご臨席いただき、世代を超えた交流が実現。10月の市民公開例会では、工藤公康氏を講師に招き、「一流の技術よりも、一流の思いやり」をテーマにご講演いただきました。人を尊重し仲間を思いやる姿勢が組織を強くするというメッセージは、参加者に深い示唆を与えました。

想いをもちながらスマートな会議体を目指そう！(総務)

会議は組織運営の中心であり、意思決定の場です。本年度は、厳粛さを保ちながらも効率的で分かりやすい会議体の構築に努めました。議論すべき本質に時間を割く運営が実現したことは、組織の信頼性を高める大きな一歩となりました。

共感と信頼を築く広報をしよう！(広報)

本年度の広報では、SNSを活用した情報発信の強化に取り組み、投稿頻度の向上とストーリーズによるリアルタイム発信を徹底しました。これにより、北九州JCの活動を市民が身近に感じられる機会が増え、透明性と開かれた姿勢を示すことができました。継続的な発信により、「JCの動きがよく見えるようになった」という声も寄せられ、地域とのつながりはさらに深まりました。

おわりに ～利他の心が未来をつくる～

本年度、私たちが創り上げてきたすべての事業は「まちのため」「ひのため」「社会のため」という明確な目的のもとに実施されました。事業が終わっても、関わった誰かの意識が変わり、次の行動へとつながり、さらに広がっていく。この連鎖こそがJC運動の本質であり、私たちが未来へ残す価値です。

私が一年を通じて大切にしてきたのは、利他の心を構成する六つの価値、「挑戦」「成長」「調和」「感謝」「礼儀／礼節」「未来ビジョン」です。これらは次世代リーダーに不可欠な資質であり、組織が進むべき方向を示す羅針盤でもあります。

支えてくださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。本年度の成果は必ずや次年度以降のさらなる飛躍へとつながります。

DO YOUR BEST FOR OTHERS とともに、利他の心あふれる未来へ。

2025年度 例会報告 / REGULAR MEETING REPORT



1 1月度例会

日時: 2025年1月14日(火)
場所: リーガロイヤルホテル小倉

例会委員会

新年例会・新年祝賀会

1月14日(火)リーガロイヤルホテル小倉にて新年例会が開催されました。

今年度初の例会では、LOMの方向性を確認し、会員同士の団結力をさらに深める良いスタートを切ることができました。

その後、新年祝賀会が開かれ、2025年度一般社団法人北九州青年会議所 第73代理事長 正富晃規君が所信表明をおこない、多くのご来賓の皆様へ今年度の想いを直接お伝えすることができました。また、新役員の紹介も行い、新たな体制をお披露目しました。

ご来賓の皆様により感謝申し上げます。福岡県知事の服部誠太郎様、北九州市副市長の片山憲一様をはじめ、多くのご来賓の方々にご出席いただき、心温まるご祝辞を賜りました。本当にありがとうございました。



4 4月度例会

日時: 2025年4月9日(水)
場所: 北九州商工貿易会館

アカデミー第2委員会

アカデミー例会

4月9日(水)北九州市立商工貿易会館にて4月度例会が開催されました。

例会テーマを「コミュニケーションが未来を築く〜信頼と絆づくり〜」とし、高木孝太郎ヘッドトレーナーを迎え、JCプログラムのなかから「JCゲーム」を開催いたしました。

「JCゲーム」はカードゲームの楽しい雰囲気の中でJC活動を疑似体験し、役職をステップアップしながら理事長を目指すプログラムです。

このプログラムを通じ、普段交流が少なかったメンバー同士のコミュニケーションの場とすることができました。

今後も北九州青年会議所として学びと研鑽の場を作っていきます。多くのゲストの方にもご参加いただき、ありがとうございました。



2 2月度例会

日時: 2025年2月10日(月)
場所: アートホテル小倉
ニュータガワ

JAYCEE育成・拡大委員会

拡大例会

2月10日(月)アートホテル小倉ニュータガワにて2月度例会が開催されました。

例会では講師として、社業とJCを両立し、わずか10年で年商130億円の企業を創り上げた渋谷巧氏をお招きし、「リーダーシップを学べ〜リーダーシップの開発と成長〜」についてご講演いただきました。

講演では渋谷氏の幼少時から現在までの苦労や、それに伴う自己成長の過程、また、リーダーシップを発揮するために重要な要素である「自己肯定感の向上」について、10個の具体的な方法もご教授をいただきました。

現在JCと社業と両立しているメンバー、またお越しいただいたゲストの皆様にも、多くの学びと気づき、そしてすぐに実践できる手法を得る機会となりました。

今後も北九州青年会議所としては、学びと研鑽の場を創出していきます。また、今回は拡大例会ということで大変多くのゲストの皆様にご参加いただき、誠にありがとうございました。



3 3月度例会

日時: 2025年3月10日(月)
場所: アートホテル小倉
ニュータガワ

例会委員会

第一エリア合同例会

3月10日(月)アートホテル小倉ニュータガワにて(一社)北九州青年会議所主管LOMとして、第1エリア合同例会が開催されました。

第1エリアは、(一社)ひびき青年会議所、(一社)豊前青年会議所、(一社)美夜古青年会議所、そして私たち(一社)北九州青年会議所の4つの青年会議所で構成されています。毎年第1エリアの連携と懇親を深めるために、合同で例会を開催しています。

例会では、福岡ブロック協議会会長の植木剛君をはじめ、役員の皆さまに出席いただき、本年度のスローガンや方向性、各委員会の事業紹介が行われました。

例会後には、福岡ブロック協議会、第1エリア4LOMのメンバーとの懇親・交流の場が設けられ、他LOMの活動を知る良い機会となりました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。



6 6月度例会

日時: 2025年6月9日(月)
場所: アートホテル小倉
ニュータガワ

台北交流委員会

台北例会

6月9日(月)アートホテル小倉ニュータガワにて6月度例会が開催されました。

今回の委員会アワーでは、1970年から続く北九州青年会議所の伝統的な国際交流事業「IFP児童交換事業」について学ぶ機会を設けました。

この事業は、北九州JCが姉妹JCである台北JCと共に実施している国際交流プログラムです。対象は8歳から14歳の児童でホームステイや文化交流を通じて、異文化理解や国際的な友情を育むことを目的としており、メンバーだけでなくご家族の協力も欠かせない大切な事業です。

当日はご家族の皆様にもご視聴いただけるよう、YouTubeにて配信も行いました。今後も伝統を未来へとつなぐ活動を続けてまいります。ご参加いただいた皆さまありがとうございました。



7 7月度例会

日時: 2025年7月3日(木)
場所: アートホテル小倉
ニュータガワ

例会委員会

創立記念例会

7月3日(木)アートホテル小倉ニュータガワにて「7月度創立記念例会」が開催されました。

大懇親会「北九州JC創立日だよ!全員集合」では、北九州JCの先輩方をお招きし、世代を超えた座席配置により、普段なかなかお話しする機会のない先輩方と深く交流する貴重な時間となりました。

さらに、シニア(先輩)VS現役によるステージパフォーマンス対決も実施しハイレベルなパフォーマンスに、笑いあり、感動ありの大盛り上げのステージとなりました。

平日のお忙しい中にもかかわらず、多くの先輩の皆さまにご参加いただき、心より感謝申し上げます。今後も北九州JCは、世代を超えたつながりを大切にしながら、地域に貢献してまいります。



10 10月度例会

日時: 2025年10月8日(水)
場所: 北九州国際会議場

例会委員会

市民公開例会

10月8日(水)北九州国際会議場にて10月度市民公開例会が開催されました。

福岡ソフトバンクホークス元監督 工藤公康氏 講演会「一流の技術より一流の思いやり」は、多くの市民の皆さまにご参加いただき、おかげさまで大盛況となりました。

工藤氏のリーダーとしての哲学、そして「思いやり」を軸にした人材育成の考え方には、会場中が深くうなずき、共感の空気に包まれました。

ご来場いただいた皆さま、並びに関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。今後も北九州青年会議所は、地域の皆さまと共に学びと成長の場を創り続けてまいります。



8 8月度例会

日時: 2025年8月8日(金)
場所: 北九州商工貿易会館

青少年育成委員会

青少年育成例会

8月8日(金)北九州商工貿易会館にて8月度例会が開催されました。

今回はグループワークを通じて、以下のテーマについて議論しました。

「①青少年の居場所不足②地域と子どもの関わり」不登校や孤立、地域とのつながりの希薄化など、子どもたちを取り巻く課題は年々深刻さを増しています。本例会では、会員・ゲストが共に意見を交わし、子どもたちの未来に向けて「北九州JCとしてできること」を真剣に議論しました。ここで得られた学びや提案は、次年度以降の青少年育成事業へと繋げてまいります。

例会後の臨時総会では、次年度理事長予定者として刀根和也君が承認され、力強い決意表明をいただきました。会場全体が引き締められ、未来に向けた新たな一歩を実感する時間となりました。ご参加いただいた皆さま、本当にありがとうございました。



11 11月度例会

日時: 2025年11月12日(水)
場所: アートホテル小倉
ニュータガワ

総務委員会

事業報告例会

11月12日(水)アートホテル小倉ニュータガワにて11月度事業報告例会が開催されました。

本年度、北九州JCは「DO YOUR BEST FOR OTHERS 〜利他の心あふれる未来〜」のその言葉のもと、利他の心をもちながら、様々な運動をおこなってきました。

北九州JCメンバーがこの1年間を通してスローガンのもと活動できたかを確認し、1年間の活動を振り返り、LOM全体で共有し、理解を深め、今後の活動に活かす機会とするために、各委員会にこの1年間の活動をまとめた事業報告動画を作成していただき、事業報告例会としてメンバー一同で動画を確認しました。この事業報告例会で感じたことを、今後の活動にもつなげていきます。

また、JCIセネターズクラブ認定授与式も行われ、新しく2名認定されました。



9 9月度例会

日時: 2025年9月9日(火)
場所: アートホテル小倉
ニュータガワ

国際交流委員会

国際例会

9月9日(火)アートホテル小倉ニュータガワにて9月度例会が開催されました。

今回は、脱北者でありYouTuberとして活動されているキム・ヨセフ氏を講師にお迎えし、「脱北者が語る日本の魅力」というテーマでご講演いただきました。

北朝鮮での厳しい生活や脱北を決意した経緯、一度目の脱北が失敗に終わり抑留された経験、そして日本に来て受けた衝撃や、外国で育った方ならではの視点から見た日本の魅力、さらにはYouTuberとして活動する理由まで、多岐にわたる貴重なお話を伺うことができました。

この例会を通じて、私たちは当たり前には享受している日常のありがたさを改めて実感するとともに、今なお解決に至っていない社会問題について考える契機となりました。

この学びを胸に、DO YOUR BEST FOR OTHERS 私たちは、利他の心あふれる未来の実現に向けて歩みを進めてまいります。



12 12月度例会

日時: 2025年12月9日(火)
場所: リーガロイヤルホテル小倉

例会委員会

卒業例会

12月9日(火)リーガロイヤルホテル小倉にて12月度卒業例会・祝賀会が開催されました。

今年度のスローガン「DO YOUR BEST FOR OTHERS 〜利他の心あふれる未来〜」のその言葉どおり、卒業生の皆さんが「ひとのため、まちのため」に尽くしてこられた姿勢に、改めて尊敬と感謝の気持ちでいっぱいです。60年会「60Bulls」の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、例会では正富理事長より1年間の総括と感謝の言葉が述べられ、今年度の活動を振り返る温かい時間となりました。そして、その想いは2026年度 刀根理事長予定者へ引き継がれました。卒業生と正富理事長の想いを受け継ぎ、これからも私たち北九州JCは、地域の未来のために歩みを進めてまいります。

最後に、卒業祝賀会にご出席いただきました先輩方、卒業生へ並べきれないほどのお花をくださった北九州JCのOB・OGの皆さま、他LOMの皆さま、本当にありがとうございました。

京都会議



PICK UP

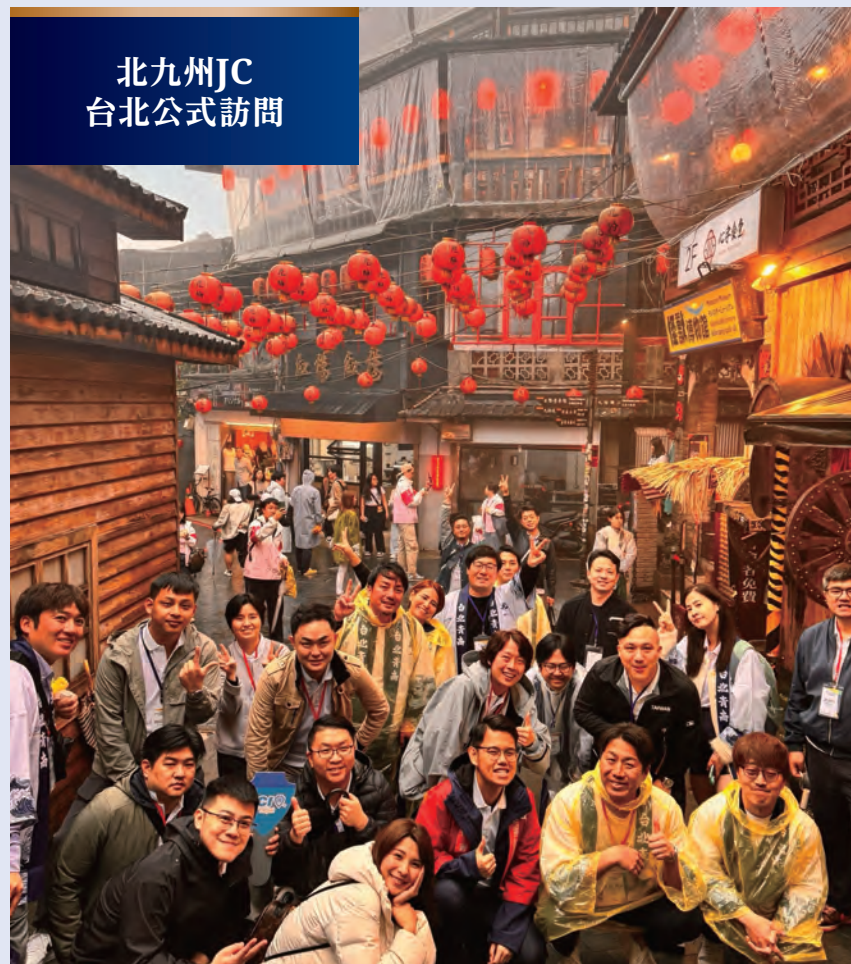
全国の同志の熱気に触れ、JC活動の意義を実感しました。日本JCの2025年度方針が共有され、メンバーとしてJCIの理念と共に一年間の活動指針が明確になりました。京都でのファンクションや行動を共にし、委員会の絆を深める貴重な機会となりました。



JCサッカー選手権大会 福岡ブロック大会



北九州JC 台北公式訪問



PICK UP

国際交流はJCならではの交流だと感じ、一生の友情関係が築ける機会となりました。



(公益)貝塚青年会議所 (一社)北九州青年会議所 友好会議



北九州マラソン 2025



福岡ブロック協議会 第一エリア野球大会



その他事業 / Other Project

- 2025年度各種PRツール作成
- 2025年度HP・SNS作成および運営
- 2025年度JC手帳作成
- 2025年度例会運営マニュアル作成

- 拡大推進会議の設置

- 第7回北九州街づくり団体交流ゴルフコンペ

- 60年「60Bulls」厄払い

インパクトJC 北九州公式訪問



PICK UP

交流は“団体同士”ではなく“人々”で築かれると実感しました。小さな気配りが友情を深めることにつながりました。



ASPAC ウランバトル大会



PICK UP

国際舞台に触れ、北九州JCが世界の中でどう価値を発揮するかを考える大きなきっかけとなりました。

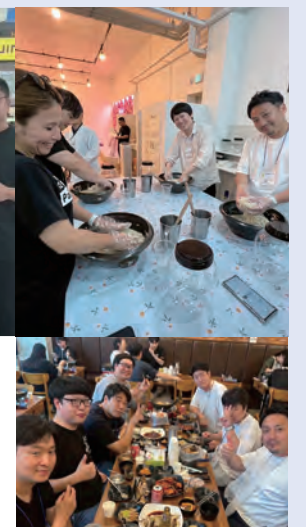


北九州JC 仁川富平公式訪問



PICK UP

文化や価値観の違いを尊重しながら交流することの大切さを学びました。行動を通して地域課題を知る機会にもなりました。



第53回福岡ブロック大会 in山門



第1回関門エリア プロモーションマーク制作事業



PICK UP

「関門新連携」や「下関北九州道路」構想が期待される中、関門エリアとして持続的な発展を実現するために、民間も地域を跨いで連携し強みを新たに創出することを目指し、下関JCと共同事業をおこないました。



第3回北九州 キッズチャレンジパーク



PICK UP

メディアドームにて、小学生を対象に子供版サスケ、職場体験などのアトラクションを準備し子供たちが自己肯定感ならびに利他の心を育む機会を提供しました。



その他事業 / Other Project

■ 到津の森公園チャリティーゴルフコンペ

■ 2025年度中間監査

■ わっしょい百万夏まつり 協賛金事業

■ 第56回IFP児童交換事業 オリエンテーション

2025年度 委員会活動報告 / COMMITTEE ACTIVITY REPORT

北九州JC創立記念例会



ウェラワッタJC北九州JC 姉妹締結50周年式典



PICK UP

長い歴史の上に今があることを強く感じ、先輩方から受け継いだ関係を未来へつないでいく責任を意識しました。

第2回・第3回関門エリア プロモーションマーク制作事業



PICK UP

36名の市民が参画し制作したマーク3案で決選投票をおこない約7,300票を集め、1案に決定しました。これからも関門エリアの魅力を多くの方に発信してまいります。

サマーコンファレンス2025



その他事業 / Other Project

■第38回 関門海峡花火大会ボランティア

■福岡ブロック野球大会

第56回IFP児童交換事業



PICK UP

1970年から続くIFP児童交換事業は本年度北九州の地にておこなわれました。台北から10人の子供たちが参加していただき、両LOMの子供達は言葉の壁を超えて友情を育みました。

台北JC北九州公式訪問



PICK UP

台北JCと両国訪問を行い、両LOM間の友情を深めました。

九州コンファレンス2025 in延岡



小倉祇園太鼓像清掃



PICK UP

アカデミーメンバーとして、この奉仕活動を通じて先輩方が築いてきた歴史の重みと、地域への深い想いを実感することができました。

■2025年度役員選考委員選挙

2025年度 委員会活動報告 / COMMITTEE ACTIVITY REPORT

9月度公開理事会



わっしょい百万夏まつり



PICK UP

北九州JCの伝統である祭りの運営に参画し、アカデミーメンバーとしてその歴史や意義を深く学びました。部会などで先輩方から直接指南を受けながらJCの精神を学ぶ実践の場となりました。多くの関係者と連携し、一つの目標に向かって汗を流す中で、JCが地域で果たす役割を実感しました。多くの市民の笑顔と、仲間とやり遂げた達成感は、今後の活動への大きな自信となりました。



第3回ヤングリーダーサミットin大阪



PICK UP

台北JC主催のヤングリーダーサミットは本年度第3回を迎え、大阪の地にて開催されました。6つのLOM(台北、東京、大阪、貝塚、ウランバトル、北九州)のJCメンバーが一堂に集い、交流を行いました。

到津の森公園支援事業



PICK UP

若者向けの夜の事業とシニア向けの事業の2度実施しました。どちらの事業も、相手の立場に立った企画づくりを学ぶ貴重な経験となりました。



全国大会in佐賀



インパクトJC 10周年記念式典



世界大会inチュニス



ウェラワッタJC 北九州JC 姉妹締結50周年 記念訪問



アカデミー委員会 修了事業



その他事業 / Other Project

■仁川富平JC会長交代式

■第一エリアOBゴルフコンペ

出向先			福岡ブロック協議会			
出向名称	出向先の 役職	氏名				
日本青年会議所						
総合連絡調整会議	委 員	神 谷 紀 江				
総務委員会	委 員	財 前 昌 幸				
価値デザイン委員会	会計幹事	東 眞 一 郎				
価値デザイン委員会	委 員	永 田 雅 浩				
価値デザイン委員会	委 員	森 山 聖				
価値デザイン委員会	委 員	周 丹				
九州地区協議会						
広報委員会	委 員	川 越 康 宣				
広報委員会	委 員	財 前 昌 幸				

福岡ブロック協議会				福岡ブロック協議会			
監査担当役員		竹 内 陽 平	財政局	委 員	繁 野 麻 理		
第一エリア担当副会長		梶 田 直 人	福岡ブロックアカデミー	委 員	北 島 雄 大		
JCブランドマネジメント委員会	委 員 長	是 則 宗 秀	福岡ブロックアカデミー	委 員	入 江 亮 輔		
JCブランドマネジメント委員会	副委員長	岡 崎 健 太 郎	福岡ブロックアカデミー	委 員	東 眞 一 郎		
JCブランドマネジメント委員会	委 員	尾 形 英 恵	福岡ブロックアカデミー	委 員	永 田 雅 浩		
JCブランドマネジメント委員会	委 員	河 津 陽 三	福岡ブロックアカデミー	委 員	栢 野 優 樹		
JCブランドマネジメント委員会	委 員	田 中 陽 祐	福岡ブロックアカデミー	委 員	吉 永 大 貴		
JCブランドマネジメント委員会	委 員	末 吉 智 久 美	福岡ブロックアカデミー	委 員	大 木 圭 太		
JCブランドマネジメント委員会	委 員	神 谷 紀 江	福岡ブロックアカデミー	委 員	松 永 達 也		
JCブランドマネジメント委員会	委 員	阿 部 舞	福岡ブロックアカデミー	委 員	小 野 秀 明		
JCブランドマネジメント委員会	委 員	星 野 宏 貴	福岡ブロックアカデミー	委 員	城 戸 田 優		
JCブランドマネジメント委員会	委 員	矢 野 聖 弥	福岡ブロックアカデミー	委 員	貞 末 拓 也		
JCブランドマネジメント委員会	委 員	財 前 昌 幸	福岡ブロックアカデミー	委 員	高 田 翔		
JCブランドマネジメント委員会	委 員	石 丸 大 介	福岡ブロックアカデミー				

一般社団法人北九州青年会議所

1953年、40数名でスタート

名 称	一般社団法人北九州青年会議所(北九州JC)
所 在 地	〒802-0082 北九州市小倉北区古船場町1-35-6F
連 絡 先	TEL093-531-7910/FAX093-551-0212 ✉ room@kitakyushu-jc.jp
設 立 日	1953年7月3日(設・小倉青年会議所)
創 立 日	1970年(社団法人北九州青年会議所)
スポンサーJC	一般社団法人大阪青年会議所
チャーターJC	一般社団法人大分青年会議所 公益社団法人中津青年会議所 一般社団法人日田青年会議所
姉 妹 J C	台北市國際青年商會(台湾) ウェラワッタJC(スリランカ) 仁川富平青年会議所(韓国) インパクトJC(モンゴル)
友 好 J C	一般社団法人宮崎青年会議所 一般社団法人横浜青年会議所 公益社団法人貝塚青年会議所 一般社団法人下関青年会議所 一般社団法人福岡青年会議所

青年会議所(JCI)とは？

日本全国666の地域に約24,000人の「修練」「奉仕」「友情」という三信条のもと、率先して行動する仲間がいます。(2025年12月現在)
半世紀以上も前から時代は変われど「明るい豊かな社会」の実現を目指す指導者たらしとする青年団体、それが青年会議所(JC)です。

世界中に広がる青年会議所

日本青年会議所は国際青年会議所(JCI:Junior chamber International)の一員です。国際青年会議所は世界115カ国17万人以上、OBは25万人以上という組織です。アメリカ42代大統領ビル・クリントン、第7代国連事務総長コフィー・アナン、フランス第5代首相ジャック・シラクも青年会議所のOBです。その他多くのメンバーOBが世界中にいます。

その他主なJC出身者

各界で社会に貢献する優秀なOBが多いこともJCの特性のひとつです。優秀な経営者だけでなく、国会議員や知事、市長などの優秀な人材も多く輩出しており、日本のリーダーとして活躍中です。

世 界	●アル・ゴア (アメリカ合衆国元副大統領)	日 本	●麻生太郎 (元内閣総理大臣)
	●アルベール2世 (モナコ大公)		●佐治敬三 (元サントリー会長)
	●ジョン・F・ケネディ (アメリカ合衆国元大統領)		●小泉純一郎 (元内閣総理大臣)
	●ビル・ゲイツ (マイクロソフト創業者)		●森稔 (森ビル元社長)
	●ロナルド・レーガン (アメリカ合衆国元大統領)		●千玄室 (茶道裏千家15代家元)

一般社団法人北九州青年会議所は・

一般社団法人北九州青年会議所とは、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、様々な活動を行う団体です。次代の在るべき姿を見据え、市民・企業・行政諸団体と連携しながら主体性を持って活動を行っています。社会を様々な角度から多面的に捉え、総合的な施策をもち、社会発展のために運動を繰り広げています。JCI北九州は次代の担い手としての責任感を自覚する青年(20～40歳)が集う団体です。

同じ理想と使命感を持つ青年が相集い力を合わせることで、友情を育み、互いに影響し合い、若さが持つ無限の可能性を引き出しあっています。日々の活動を通して、社会・地域のリーダーとしての指導者能力を鍛えることも行います。

北九州青年会議所では、会員を募集しています。

- 仲間をつくりたい
- 北九州市の活性化、まちづくりに参加したい
- 自身の能力を発揮したい

日々の生活とは違う挑戦をおこない、
新たな仲間を作り、北九州市の発展と共に
自身の成長をめざしてみませんか？

医療・介護・薬剤関連	人材・派遣	飲食業	製造・流通・貿易関連
畑 信二 株式会社畑薬品 星川 育代 有限会社医療事務研究会 安木 南 有限会社やすき	繁野 麻理 まりこねくと	伊藤 悠太 CREACIA 入江 亮輔 OBORO 大下 亜耶 株式会社TKsmile 川原 一高 株式会社一椿 菊池 和樹 ハーモニーワールド株式会社 北島 雄大 株式会社NEXT STAGE 木原 彩 Wiz 清原 真登 DIGNUS株式会社 財前 昌幸 株式会社アリヤス 佐々木 翔 株式会社天彦 孫 曉茜 千愛株式会社 竹岡 香菜 MEMBER'S 莉 中野 裕太郎 39 貫野 愛子 株式会社Ailes 原 健人 LAMERカントリー倶楽部 松本 賢治 カラオケBAR見切発車 宮崎 悠 百年継承 宮福本店 向井 志織 Member's Rank S. 村上 優弥 とんこつラーメン 豚のむら 山室 小巻 Jill 弓削田 愛未 ミックスバーウタグロ	小川 孝一郎 有限会社小川石材 木谷 勇祐 田野浦船舶株式会社 儀万 恭史 リンピックホールディングス株 添田 泰治郎 有限会社SIT 田中 公樹 日本たばこ産業株式会社 徳永 大典 三洲産業株式会社 原田 賢太 北九州商事株式会社 村方 亮太 ムラカタ流通株式会社
建設・設備	不動産関連		サービス
石飛 雄大 ビルドメンテック株式会社 稲月 麻美 株式会社美山森 入口 広大 株式会社入口建築設計 宇都宮 億巳 有限会社大塚工務店 梅尾 翔太 梅尾造園 大野 正樹 有限会社大野機工 大山 包夢 株式会社APS 唐木 弘明 唐木電気管理事務所 川村 洋史 大栄株式会社 木戸 太郎 木戸安産業株式会社 近藤 春花 株式会社玄昌 貞末 拓也 株式会社平和電業社 竹田 東 竹田装建 田中 慶太 九州機電株式会社 谷口 礼治郎 株式会社谷口通信社 月形 直貴 株式会社月形 富田 靖久 西日本工材株式会社 中野 宏亮 株式会社長谷部電設 永山 純彰 株式会社サンエイ 縄雅 健三 サンゲン工業 花元 一樹 Eフロア 平田 政樹 北消防防災設備株式会社 平海 大地 株式会社幸栄工業 福田 勝平 株式会社五福 福山 雄太 株式会社福山組 本間 正浩 株式会社渡部建設 松村 圭一郎 .Noahホールディングス株式会社 道野 誠 株式会社トリリオン 光山 貴哉 株式会社ダイコウ技建 矢頭 祐典 株式会社smile factory kyushu 山下 優花 yuuden 横田 優太 株式会社光徳電機商会	石寄 允郎 株式会社グローバルマーケット 今村 信介 株式会社ウィングス 内田 慶太 タワービル都市開発株式会社 尾形 英恵 勤和興産株式会社 岸野 大作 株式会社ASSET 末吉 智久美 株式会社デザイナーズラボ福岡 菅原 健二 菅原不動産株式会社 刀根 和也 株式会社ネクストーン 富田 一輝 株式会社リノベキミ 長富 紗良 株式会社オークラ 橋元 貴津那 株式会社connect home 日高 康介 株式会社ミクニ 細川 睦樹 株式会社不動産のデパートひろた 森山 聖 大英産業株式会社 吉岡 稔騎 株式会社Liz		上村 健太 株式会社栄光ゴミ処理センター 大西 克昌 株式会社サニーライフ 大山 裕生 株式会社モンテテソーロ 末田 良樹 株式会社ROYAL 甲斐 俊吾 北九州エナジー株式会社 川越 康宣 株式会社シン・リン 木村 直貴 株式会社ケイアンドケイ 柴田 洋岐 株式会社Thanks 島田 卓 JR九州ホテルズアンドリゾーツ株式会社 高田 翔 おうちサポート 田中 裕人 株式会社LIBERTE 中野 裕太 中野電話工業株式会社 西元 亘平 てきさすぼーるでむ。 星野 宏貴 有限会社エイセイ
卸売・小売業(酒・食品類)	卸売・小売業	産廃・清掃・メンテナンス	士業
東 眞一郎 株式会社セビア 甲斐 寛和 株式会社BEFS 梶田 直人 株式会社かば田食品 河口 航大 株式会社河口酒店 戸高 大介 株式会社かねすえ本舗 戸町 武秀 デリカフーズ株式会社 永田 雅浩 株式会社TriNity 橋部 智貴 株式会社河村酒販	大庭 賢次郎 BESPOKE OHBA 大政 卓也 株式会社大崎商会 岡橋 功樹 株式会社ワシダ 栢野 優樹 MioSarto 神谷 紀江 株式会社花輝 城戸田 優 ぼむわん 古恵良 優 株式会社古恵良販売 早川 秀晃 株式会社ARIGATO 福田 亮太 株式会社キフネ 牧之瀬 竜平 株式会社パーソナルネット 矢野 聖弥 セラフィム・ワン株式会社	石川 祥 石川商事(株) 岡崎 健太郎 岡崎建工株式会社 小野 秀明 株式会社重信産業 林田 拓也 光進総建株式会社 宮崎 直樹 株式会社プロテクトホーム	景山 康幸 リエゾン行政書士事務所 金崎 大地 株式会社ショウエー設計測量事務所 後藤 啓太 L.B.E法律事務所 末安 陸斗 弁護士法人自由 城野法律事務所 堀内 雅臣 弁護士法人北浜法律事務所 福岡事務所 見越 あけみ 弁護士法人自由 城野法律事務所 若林 真衣 富下会計事務所
教育・学習関連	自動車関連	政治	整骨院・エステ・美容室・ジム
大町 侑平 株式会社ロジコモン 蜂谷 将邦 社会福祉法人boon	藤永 真一 株式会社KEN'S FIELD 松永 達也 株式会社Ts PROJECT	佐藤 楓 福岡県議会議員	秋田 倫希 LOUVRE株式会社 東 惇浩 ゆかり接骨院 鷗池 育 アット整骨院 河津 陽三 株式会社ネスル 周 丹 リラク・きらく中国式マッサージサロン 高原 大倫 日焼けサロン ROGIEAM 福島 京一 株式会社ELC 藤田 修平 PLATINUM HEALING. 吉永 大貴 BIJOU
広告・印刷・クリエイティブ・IT関連	イベント関連	神社	旅行
岩本 成矢 株式会社DECORATE COMPANY 林 邦明 LCS 宮原 慎治 株式会社マルチプライムソリューションズ 宮 盛王 ツカサ印刷株式会社	井手 雄斗 株式会社トラベルルック 宮垣 優也 名鉄観光サービス株式会社	是則 宗秀 戸上神社	